

(別記)

## 斜里町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、小麦、甜菜、馬鈴薯の基幹3作物を中心に、広大な農地を利用した大規模畑作経営を行っております。また、輪作体系の維持、収益性の向上の為、青果物や緑肥作物、大豆等の作付も行っており、酪農・畜産経営による飼料作物の作付も一部行われております。

従来から山岳から吹き下ろす強風や、オホーツク海高気圧による低温等の影響を作物に受ける事があったが、近年は春先の暴風(雨もしくは雪)、悪天候による播種の遅延と、夏から秋にかけての高温・多雨による病害虫の発生による減収が問題となっている。また、天候や圃場条件等の影響により、各作物が連作となる場合が見られる事から、適正な輪作体系の確立が必要となっている。

### 2 作物ごとの取組方針

#### (1) 小麦

輪作体系の維持と、生産数量目標に沿った作付面積を確保するため、湿害を回避する排水対策の実施、生産性向上のために土壌分析に基づく施肥設計の取組に対し支援する。また、春小麦については品質向上のため収穫二段階方式を採用している。

#### (2) てん菜

輪作体系の維持と、生産数量目標に沿った作付面積を確保するため、湿害を回避する排水対策の実施、生産性向上のために土壌分析に基づく施肥設計の取組に対し支援する。

#### (3) 馬鈴しょ

輪作体系の維持と、生産数量目標に沿った作付面積を確保するため、湿害を回避する排水対策の実施、生産性向上のために土壌分析に基づく施肥設計の取組に対し支援する。また、反収維持・向上のためにシスト抵抗性品種の導入を進める。

#### (4) 大豆

輪作体系の維持と、生産数量目標に沿った作付面積を確保するため、湿害を回避する排水対策の実施、生産性向上のために土壌分析に基づく施肥設計の取組に対し支援する。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 28 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
秋小麦	2,327	2,318	2,330
春小麦	420	420	420
種子用小麦	62	65	64
澁原馬鈴しょ	2,011	1,919	2,000
種子用馬鈴しょ	232	245	235
てん菜	2,690	2,671	2,630
大豆	18	19	20
小豆	82	68	75
飼料作物	562	559	563
そば	45	45	40
その他地域振興作物			
野菜	1,130	1,201	1,172
地力増進(緑肥)	198	145	190
その他	5	2	0

### 4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 28 年度 (目標値)	30 年度の 支援の有無
					( )	( )	
					( )	( )	
					( )	( )	
					( )	( )	

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2 (5) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、( ) 内に、数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

※畑地の面積は含めないこと。

※28 年度の支援の有無の欄は、産地交付金による助成を行う取組は「有」を、助成を行わない取組は「無」を記載する。